
学園と太陽神と永遠の唄姫

ベスWRS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園と太陽神と永遠の唄姫

【Nコード】

N5066V

【作者名】

ベスWRS

【あらすじ】

普通の学生の俺……だが「緋天測高校」という戦闘用学校に入ってしまう……

……やべーよここ魔物は強襲してくるしバトルは俺じゃついていけないしヤバいぜ

授業も全部自習だしWW

殆どの奴が耳とか動物の耳だし尻尾生えてるし……俺だけが人間見たいなもんだし……

しかも旅に出るだとう！？

……はあ……ついてけねえ

つーか俺運悪……

ヤベえ………三界戦争勃発!?

学園と太陽神と永遠の唄姫キャラ紹介(前書き)

キャラ紹介+ についてです!!

学園と太陽神と永遠の唄姫キャラ紹介

主人公

龍崎・A・ストロイカ

性別男

種族人間

髪色黒

ごく普通の高校生でしょんな事で戦闘用高校「緋天測高校」に入学してしまう

幼なじみ

猫未 紗藍

性別女

種族猫族

髪色茶

龍崎と幼なじみの猫族

術、呪文が大の得意でよく龍崎に術や呪文で悪戯する

龍崎と同じ「緋天測高校」に入学する

緋天測高校に入学したのはただ面白そうだから

謎の転校生

レイド

性別男

種族人狼族

髪色灰

銃、術、双剣を使う入学式から1ヶ月後に転校してきた

無口で自分のことは全く語らない性格

天使の少女

ティーラ

性別女

種族天使

髪色白と黄色を混ぜた風な色

術がとても得意で剣も使える

背に鳥の羽みたいなのが生えてる

心優しく勘が鋭い

女男（笑）

（ドカツバギグシャ

涼風 華奈

性別女

種族ハーフエルフ

髪色水色

剣、呪文が得意でかなり強く学年1、2の強さ

美しく強い少女

ハーフエルフだがあまり気にしない人

めずらしい蛭族の双子

レイス・ライティ

性別男

種族蛭族

髪色うすい黄色

人形をした蛭族で虫を操る事が出来る

真面目で素直な少年

レイラ・ライティ

性別女

種族蛭族

髪色うすい黄色

レイスと同じで人形で虫を操る事が出来る

ちよつと高飛車で高貴な少女

男の娘（笑）（ドカツバギグシャ（またか（笑））

如月 月夜

性別男

種族エルフ

髪色白

弓術を使うエルフ

如月月夜という名前はどつやら偽名らしい

性格はおとなしいが戦闘に入ると性格が変わる

魔族なう!!!(^^)ノ

イカロス・シューテイ

性別女

種族魔族なう!!!(^^)ノ

髪色緑

ヲタク少女で厨二病ぎみ

魔法と剣を操る魔法剣士

性格は内気でシャイ

魔女っ子(キラッ(自称)

トワ・ライトニング

性別女

種族人間

髪色金

デカイ筆を使う魔法使い

筆で飛べる……らしい

性格はとにかく目立つ存在でムードメーカー的な存在

クールな多重人格

レイ・ブレイド

性別男

種族人間と狐族のハーフ

髪色黒

クールな多重人格者でもう一人の人格はリュウトという神秘的な性

格の人格

使う武器はレイは双剣、双銃、術、投げナイフ

リュウトは弓、呪文忍術

ここからその他

魔物

ゴブリン

性別？

種族悪人種

容姿

白目に頭に角が二本

体色は緑

耳はエルフの用に尖っている

鋭い爪があるという容姿

リビングドッグ

性別？

種族犬族

容姿

一見普通の犬族にしか見えないが牙は犬族よりも鋭く爪も長い

とても賢く集団行動をする

リビングドッグの中にも喋る者や人間の味方をするリビングドッグ

もいる

トロール

性別主に雄

種族悪人種

容姿

人間よりも一回り大きく頭が悪いく力が強い

体色は深緑

利き手に棍棒を持ち歩く

オーガ

性別主に雄

種族悪人種

容姿

トロールと同じ位でトロールと同じで頭が悪く力はこの魔物より強い

トロールと同じ利き手に棍棒を持ち歩く

緋天測高校について

冒険者育成高校

ゲーム風に言うとギルド

戦闘訓練、対魔物戦闘訓練、呪文、術練習など

この高校にはランクがあり個人は

SS、S、A、B、C、D、E、F

で最初はFではじまる

団体もありランクがありランクは

ZZ、Z、G、H、I、J、K、L

で最初はL。Lは個人のF

ZZはSSになる

制服は男子はYシャツでブレザー紺の長ズボン

女子はセーラー服でチエックのスカート

生徒の中にも制服を改造する者もいる

何時魔物が強襲してきてもいいように銃、剣は持ち歩いてもいいようになっている

戦闘用の専門科目があり主に

剣闘科

銃闘科

魔法科など

まず緋天測高校には普通の人は近寄らない

魔物について

魔物については殆どが謎だが「魔界」から出てきてるといいう事が証明されている

魔物は悪人種が多く悪人種が7割を占める残りは3割は犬族、猫族、竜族、などだ

人間以外の種族について

人間以外の種族は主に人型の猫族、人狼族、など

特に珍しいのは天使族や、人型の虫族などだ

3割の内では主な種族が2割
珍しい種族は1割程だ

武器について

剣類は和刀、洋刀、魔法剣、銃剣、など

銃類はハンドガン、マシンガン、サブマシンガンなど

弓類は弓、短弓、長弓、など

他は魔法筆、魔法杖、爪、棍、牙、扇、細剣、人形、などだ

終了なう!!!(笑)

学園と太陽神と永遠の唄姫キャラ紹介（後書き）

物凄い作るのに疲れました……はい

第零剣 入学（前書き）

とうとう始まった入学式。

会ったのは蛭や魔女人間や大人っぽい高校生。

ふう……魔女人間はとてつもなく明るいき、蛭は双子だし、大人っ

ぽい高校生はハーフェルフだから、俺だけ普通だった……嘘だああ

ああああああ！！！！！！

第零剣 入学

俺は龍崎・A・ストライカ。普通の学生だ。だけどとある事で戦闘用高校「緋天測高校」に行くことになる。

「おーい」

バチチ!

「ぎゃあ!?!」

「いてて……何するんだよ!」

「悪戯」

……こいつは幼なじみの猫未紗藍。悪戯好きのおてんば姫だ。あとこいつは「人猫族」という種族のやつ。

「ねー高校緋天測高校行くんでしょー」

「……ああ」

「あたしも行くから宜しく」

……は?

何言ってるんだこいつ。確かにあいつは普通の人型族よりは術だって呪文だって扇だって使える。

「ねえねえ」

俺は大した事ないからしゃーないが……

「ねえー」

ペシペシ

「だあー!うるさいな!」

「ひゃあ!?!」

あ

やっちゃった……

「明日だねー」

「……ああ」

……嫌だ

あんな高校行くのは。

「んじゃばいばい」

はあ…… やつと帰ったなあいつ

次の日

ピンポーン

「ZZ」

ピンポーンピンポーンピンポーン

あいつ来たな……

トタタタタタ

ガチャ

「……はい」

「おは」

来たのは分かるが…… 早速改造してるし制服。

フワフワだし…… 黒いし

「……何だよ。それ。」

「えーこれはー緋天測高校制服ロリ風ゴスロリだよー」

……またか。

こいつは中学の時も改造制服で来ていた。

三年前……

ピンポーン

「……はい」

「おっはー」

……え。

「……何そのフワフワ。」

「これはー天測中学白ロリ風だよー」

何だよ…… それ……

そして現在に戻る。

「お前またか……」

「えーいいじゃん」

いや良くねえ。

……まあまだ顔は可愛い方だからいいけど不細工が着たら俺、吐くぞ。

「んじゃ行こー」

「……おう」

しばらくたち……

……ここか緋天測高校は。

結構豪華だな。見た目は。中次第だな。

「んーでつかいねえー」

紗藍は伸びて緋天測高校を見ている。

「そうだなー……」

俺も伸びて緋天測高校を見る。

しかし見っ放しだと首が痛くなりそうだ……

「あー」

後ろから声を掛けられた。

二人の声がハモってるから二人いるのだろう。

「はい」 紗藍が返事して俺もクルツと振り向く。

「すみません。入学式どこでやるか知ってますか？」

……双子だ。虫見たいな羽が生えてる。

髪も同じ薄い黄色だ。そして目の色は青い色をしている。

……双子なんて初めて見た。しかも虫だなんて。びっくりだ。

「……人の事ジロジロ見るなんてひつれいではないの？入学式はどこでやるか。聞いてるのです。早く答えて頂戴。」

女子の方が喋った。

ちよつと貴族っぽい喋り方だ。

「……えーと俺達も知らないから探してる」

「……えーと俺達も知らないから探してる」

「……えーと俺達も知らないから探してる」

……男子の方はおとなしそうだな。

優等生見たいな感じがする。

「じゃあさあ一緒に行くのはどうかな」

「それ。いいじゃないですの。」

紗藍もいいアイデアが浮かぶもんだな。

「自己紹介してませんでしたね。僕はレイス・ライティ。こっちは……」

「レイラ・ライティですの。」

……だそうだ。俺達も自己紹介したほうがいいな。

「……俺は龍崎・A・ストライカだ。」

「あたしは、猫未紗藍。二人共、宜しくね。」

……いちよう自己紹介はした。

「……人間なんて久しぶりに見たような気がします。」

……え

……どうやらこいつらは余り俺達の種族を見たことが少ない見たいだな……

「……そうなのか。」

「ええ。全然見たことありませんわ。」

「……レイラは貴族か何か？」

取りあえず聞いて見たが……

「……いちようね。あんまり有名ではない貴族ですけども……」

……何か悪い事聞いちゃったかもな……

「まあ気にしなくていいわよ。」

「……分かった」

と言うことはレイスもか。

「取りあえず行こうよ 三人共」

……だなレイスとレイラもいるし。

「行くぞ。」

「ええ。」

「あ。はい！」

という返事が帰ってきた。

まあいいけど……

10分後

「ついたね」

どうも体育館だったらしい。

「転入生か？」

誰だ？

「はい、そうです。」

紗藍が返事する。

「まあ私もだが。」

……これが高校生なのか？

大人の体型だ。まるで。

「取りあえず……自己紹介させてもらおう。私は涼風華奈だ。一様高一だ。」

「あ。はい。宜しく願います。」

レイスが返事する。

勿論レイスとレイラの姿に一瞬びっくりしていたがすぐ案内してくれた。

その後

「はあ……入学式疲れた……無駄に。」

「だな。」

涼風さんがいう

……後から聞いたが彼女は人間とエルフのハーフらしい。

人々はハーフエルフを差別している。

何故かは知らんがだが涼風さんは全く気にしてない。

「クラス。見て来るね。」

「頼みましたわよ！」

「いてら。」

10分後

「どうだった？」

とレイスが言う。

「えつとねーあたし達みんなA組だよ。」

だそうだ。

「他はどうした。」「えつと、龍崎君、あたし、レイス君、レイラ

ちゃん、涼風ちゃん、ティーラちゃん、如月月夜君、イカロス・シユーティちゃん、トワ・ライトニングちゃん、レイ・ブレイド君、先生はスライ・サイガ先生だよ」

流石術の天才。
俺じゃ無理だな。

「……凄いですね。」

「エッへー 術は大の得意何だあ」

「いや術以外も得意だろ。」

と言ってみた。が呪文だけだかな（笑）

「そうなのか？」

涼風さんが反応

「呪文ですか？」

そのとうり！（笑）

「そのとうりですのー！！」（ビシッ）

「ですのー！（笑）」

聞いた事のない声が紗藍の真似をする。

「……誰？」

レイスが反応だ。そりゃそだな。

「アタイはトワ・ライトニング！！あんた達はA組の龍崎・A・ストライカと猫未紗藍とレイス・ライティとレイラ・ライティと涼風華奈とお見おおけした！」

凄いなー全部当てやがった。

「トワ・ライトニングという事は同じクラスのか。」

「そのとうり！」

トワ・ライトニングは……凄く明るくてめっちゃでかい筆を魔女がのるようなホウキがわりにしている。帽子は魔女のに似ているそれにこいつも制服を改造してマントつけてる

「取りあえず宜しくうー！」

第零剣 入学（後書き）

さてー今回は龍崎・A・ストライカ、猫未紗藍、涼風華奈、レイス・ライティ、レイラ・ライティ、トワ・ライトニングを出しました。ちよつとクールな龍崎君

おてんば姫猫未紗藍

おとなしめ貴族レイス・ライティ

まんま貴族少女レイラ・ライティ

とんでもガールトワ・ライトニング

という感じに……

性格はこんな感じに思っして下さい！（）ビシッ

第一剣 嘘だろ……！？

ライトニング（何時の間にか呼び捨て）の話が終わり教室に行くと

……
ガシャーン！！

「……………は？」

音の聞こえた所を見ると耳がやけに尖った女子とエルフばい男子が
喧嘩……………いや戦闘してる

それと他の奴等は見事にスルーしてる

「……………紗藍ちよつと来い」

「何〜？」

「あのカオスな状況は何だ？」

「知らな〜い」

「誰も止めようとしなののか？」

「いや見てて楽しいし」

いや止めるよ

このカオス過ぎる状況を。

ガラッ

……………誰か入って来たな

「ちよつと！！何入ってしてるんですか！！」

止めてくれる見たいだな……………

「ああ？うるせえよこの変人が」

この変人ってひでえなWWW

戦闘してる方が変人だと思っただがWWW

ばちっ！！

「うおっ！？」

俺はばちって聞こえた方を見た

「……………マジか」

どうもあれは術でそれを打ったのは……………

「全く……学校で戦闘するなんて……何て人達ですか……」
今の言葉を言った人が雷の術を打った人

……その人は背中に真っ白な羽が生えていて如何にも天使って人だ

その後は何も無かったが終わった後も一向に先生は来なかった

「……先生来ないな……」

前の男子……レイ・ブレイドって奴が言った

確かにそのとうりだ

レイ・ブレイドは戦闘時は寝てた奴

俺と同じ人間だ

「先公何て別に来なくていいんだよ。」

そいつの隣のさつき戦闘してた女子がそうゆう

この人はイカロス・シューティって人

……取りあえずこの人には近寄らない事にする

「……来ないと困るな」

涼風（またまた何時の間にか呼び捨て）の意見には賛成だな
うん

「先生呼ばないと駄目じゃない？」

「じゃあ私が」

天使の人がいう

名前はティーラだった

ガラッ

「……先公だボソッ」

カキカキ

何か黒板に書いてる

書いてあるのは…… 「自習自由に勉強してる……か」

「シャッホウー！」

ガタッ

トトトトトト……

……

「はあ……何でこんな高校入ったんだろう……」
いや本当……

第一剣 嘘だろ……！？（後書き）

今回は短い……

第二剣1ヶ月経ち

あの戦闘から1ヶ月……

「……ZZ」

また戦闘をしてる

無視して寝てる

ガタッ

ビクッ

先生が来た

「転校生を紹介する」

「またですか(笑)」

……こいつは一番最初に転校してきたローエンっていう孔雀か何かの種族

ライトニングと紗藍がキヤーと言う程の美男

ローエンの隣でオレシラネって顔してんのがスラガって竜人族

だが竜人族と言えどあんま強くない

こいつも転校生

「……えー入ってきなさい」

ガラッ

「……人狼族のレイドだ……宜しく」

「「キヤー！」」

紗藍とライトニングがキヤーキヤー言ってる

レイドは、はっ？はっ？って顔してる

そゆうう感じを見て

「……レイドこっちだ」

レイドは俺の言った通りにする

隣だからな

「……宜しく……えっと……」

「竜崎・A・ストライカ。竜崎でいいよ」

「……改めて竜崎宜しく」

こうやって言われるとちよっと恥ずかしいな

「ああえっと……レイド宜しく」

ドンガラガッシャン！！

嗚呼またか……

「……ZZ」

寝たふりで見ねえぞ

スツ

ん？何かの音が……

バン！！

ガタッ

「な……何だ！？」

見たら……

レイドが銃を打っていた

しかも双銃

クルッ

スチャ

「……次、喧嘩したら命中させるから覚悟しといて」

……一瞬レイドが恐ろしく見えた

こいつとんだだけ強いんだと考えると寒気がした

放課後

「ねえねえ二人共」

ローエンが話し掛けてきた

「……何だ」

「戦闘訓練行こう」

「？戦闘訓練とは？」

「あ戦闘訓練はね銃とか剣とか術呪文訓練できな」

ローエンが説明をちゃんとする

ローエン凄いな

「んじゃ行こう！」

10分後

「 やあ!! 」

サツ

「二人共すげー……」

「竜崎も入んないのか?」

「まあ弱いしな……」

「大丈夫だよそれに竜崎は術とか得意だしね」

まあ術とか呪文は普通より得意だからな……

「……んじゃやるか」

暫く立ち

「 ふう……疲れた…… 」

流石に剣と術、呪文を一気に使うのはキツいな……

「流石に僕も疲れたよ」

ローエンもそうゆう

「……三人同士で一気にやると疲れるな」

そういえば

「……獣人って獣化出来るのかな」

「出きるよ」

とローエンはいう

マジか

「……今やって見せて」

「……俺はどうすれば」

「お前も」

「……分かった」

ドロン!

おお……

ローエンは青い孔雀

レイドも青い狼

ドロン

「あーあの姿は結構疲れるな」

ローエンは戻った瞬間

ドン

「何だ？」

ドンドンドン

「何あれ……！？」

狼姿のレイドはヴーと威嚇している

どうも魔物っぽい見たいだ

しかもでかい

「ヴオオオオ……！！」

「でつか……」

でかい

多分5mあるんじゃないかな

「ガウ……」

狼姿のレイドは魔物に飛びかかったが弾かれた

ドロン

「……流石に狼姿じゃ無理だったか……」

>術式起動！！中級風呪文エアカッター！！<

ローエンが呪文を使うが

「……全然聴いてねえ」

ズシンズシン

ドカッ

サッ

ジャキ

レイドは狙われたけどかわして剣で斬る

かなり聴いてる見たいだ

「ギヤアアア……」

……よし！

「今だ……」

>術式起動！！上級火炎呪文ブレイズフレイム……<

「ギヤアアアアア……」

「ローエン!!レイド!!今だ!!」

「……ああ」

「分かった!」

>術式起動!!上級雷呪文ホーリーサンダー!!<

レイドの剣に向かってローエンが呪文を打つ

チャキツ……

ピヨン

ジャキ!

「ギヤアアアアアアアア!!」

ドシーン

「よっしゃ!!」

「……これどうするんだ?」

「……」

「……先生呼んでくる」

10分後

「……こいつは」

先生は驚きの目で倒した魔物を見る

「……どうやって倒したんだ?」

「俺達で協力して倒したんです」

「……」

「……?」「」

「一年生でこいつを倒すとは……」

「何か悪い事しましたか……?」

ローエンが聞くまあそうだろう

「いや君達は凄い強いしかもこいつは此処等一体を困らしてたから

な……お前達は上出来だ」

だそうだ

意外な返答だった

そして次の日

「……zz」

ピンポーン

「…ZZ」

ピンポーンピンポーン

「……………」

誰だ一体

ガチャ

「おはよー」

……………紗藍か

「おつす！」

「……………何故ライトニングが居る」

「さらたんに教えて貰ったのさー!!」

何だよさらたんって

突っ込みたいけど突っ込みずれえ……………

「行こうZe」

ちよつ東 キヤラになってるWW

「はいはい……………」

パサパサ

ん？何か飛んできたな……………

「クワァー!!」

(。°。)

孔雀？が飛んできた

しかも後ろには狼が乗ってる

「ちよつと〜ローエン脅かさないでよ〜」

は？どうゆう事？

ドロン

「へへっバレたWWW」

「……………」

どうもローエンとレイドが獣化してきたらしい
獣人っすげえ

「さて今度こそ行こうZe」

「……………」

レイドもこうなってる

ブラックホールを見たらな……

「……………」とりまみんな座ろうか

涼風がこういう

俺達もサササと座る

「……………」何か悪い事したかな俺

「いやお前は何もしてないけど呪文がデカ過ぎる」

「……………」

「そんな顔されたってな……」

ガラッ

先生が来たどうせまた自習と書くだけだろう

「事件だ至急武装して校庭へ急げ」

……………マジか

第二剣1ヶ月経ち（後書き）

次に転校生の紹介をしますはい

転校生説明

黒瀬神奈子

種族人間

性別女

髪色白

とても好戦的で魔術が得意

何時も騒がしくしてる

スラガ

種族竜人族

性別男

髪色黒

無口で冷静沈着で内気

その性格のせいか地味

だが強さは天下一品

ローエン

種族人孔雀族

性別男

髪色蒼

陽気で楽観的

術、呪文は最強クラス

セイラン

種族エルフ

性別男

髪色黄色っぽい白

おとなしく戦闘は基本しない

呪文、弓術が得意

(´・`)(タリナイヨウ

(´・`)(タリナイヨウ

(´・)(タリナイヨウ
タリナイヨウ

"

|

(´・)(

\ | っ / c

転校生説明（後書き）

竜崎「タリナイヨウタリナイヨウは気にしないするな」

第三剣事件発生

「ふう……まさか依頼を出されるなんて」

「……確か飛竜が現れたからそれを退治するんだっただな」

「飛竜なんて倒せるか？」

「さあ？」

「……」

これは校庭に行つてからの事、

「事件は魔界の穴から飛竜が出て来たなのでお前達で飛竜を退治しろ」

……の一言から

「……まあ飛竜なんて倒せる気がしねえよな……」

「何たつて竜だよ？竜人族のスラガであんだけ強いんだから」

だよなスラガはこの高校でも強さはトップクラスだもんな

普通の竜はそれ以上に強いから……

「……居た」

「マジか」

レイドが飛竜を見つけた

……ヤバいな

「ガアアアアアア！！」

「……でかつ。こないだの奴よりでかいなーまあ手加減しないけど」

ドドドド

ローエンが術を打つ

だが飛竜にはかわされてしまう

「あちやー」

「……………」

チャキツ

バンツ

レイドが銃で一発飛竜の羽に向かって打つ

「ギヤアアア！！」

飛竜は羽を打たれて落ちる

流石レイド

「よし次は俺だ……………」

「ガアアアア！！」

……………炎！！

>術式起動！炎守備！！<

ゴオオオオオオオオ

シユウ……………

「……………無事？」

「レイドありがと！！」

>術式起動！最高雷呪文インディグネーション！！<

「ガアアアアアアアアアアア！！」

俺の最強呪文インディグネーションが命中する

と同時に飛竜の目が真っ赤に染まり同時にもの凄い砲口をする

「ガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！」

「……………」

レイドは耳を押さえてる狼だから耳が良いからかなりキツイのだろう

「う……………」

俺もヤバイ……………

>術式起動聴覚保護！！<

ローエンの聴覚保護のお陰で砲口が余り聞こえなくなった

「……………ローエンありがと」

レイドがローエンに礼を言ったのと同時に双剣で飛竜に切りかかる

「……………ハッ！！」

「グルルルルル……………ガア！！」

「くっ……」

チャキッ

バンツバンツ!!

「ガアアアアアアアアアア!!」

「よしっ……」

>術式起動!最高光呪文ライトニングホーリー!!<

「ギアアアアアア!」

……えー今さっきの状況を説明する

まずレイドが双剣で切りかかった 当たったは当たったが尻尾で弾かれた 飛ばされたレイドは空中で双銃で打った ローエンはその

隙に呪文を打った!!飛竜は瀕死

だから俺が

「……止めだ!!」

>術式起動!上級光呪文ホーリーブレイド!!<

「ギアアアアアアアアアアアアアア!!」

ドサッ

「……ふー」

「……勝った」

「んじゃこいつ学校に持ってこっ」

「どうやって?」

「こっやって」

フワッ

……マジか

俺じゃこいつは念力で上げられないな

「んじゃ誰か瞬間移動使って」

「……分かった」

フッ

高校

「ガヤガヤガヤガヤガヤガヤガヤガヤ……」
フツ

「敵倒したよー」

「え本当にー」

ライトニングがそうゆう

「ほらっ」

「マジだ凄い」

「まさか三人がそんな強いなんて驚きだよー」

紗藍、ライトニングが畳み掛けるように言う

「俺が止め差したんだからな」

俺の事も言つとく

「……でも活躍したのはローエンだろ」

「……レイドー……」

「凄いじゃないか三人共」

「そうですね」

「凄いよ！三人共」

わーわーガヤガヤ

「……こっち行けば抜けられるからどうする？抜ける？」

「そうだなレイド……」

タタタタ……

10分後

「ふう……」

「抜けられたねー」

「っ……疲れた」

今教室だ

あの騒ぎから逃げてきた

お陰で疲れた

ガラッ

「あ……先生」

「お前達か……飛竜を倒したのは」

「……はい」

「……昨日のキングオーガといい今日といい……お前達は……」

どうも昨日の魔物はキングオーガというらしい如何にも強そうだな
前だ

「まるで……」

第四劍三人の英雄（前書き）

短いですすみません（| |）<

第四剣三人の英雄

「三人の英雄見たいだな……ボソッ」

……三人の英雄？

とりあえず気にせず後でローエンとレイドに聞いてみる

「それでは戦闘訓練だからな行ってこい」

ガラッ

ピシャン

「さて行くかー」

さっきのは聞いてみたがローエンはググれっ（笑）だしなレイドは知らないらしいし

うーんじゃあ実際にググって見るか

暫く経って

「ふー終わったー」

「だなー……」

今日も鬼畜だった……

「なあなあ」

「何だよ」

「高校の外出てみようぜWWW」

「……はっ？」

俺とレイドは同じ反応をしてしまった

当たり前だ

外は魔物でうじゃうじゃ

此処はまだ安心だがよっぽどの事が無い限り外に出るのは許可されないし勝手に出たらヤバいし確実に外出が完全に出れない状態になる

「先生に見つかんなきゃ大丈夫だよ」

「そんなもんか？」

「そんなもんだよ」

「…………」

「んじゃ行くぞー!!」

> 術式起動！瞬間移動!!<

フツ

「さあ外だー!!」

「……………いいの？……………」

「本当だ……………いいのかな？」

「これならOKー」

> 術式起動！透明化<

シュ…………

「どやっ!!」

「……………」

> 術式起動瞬間移動<

「レイド！ありがとな!!」

「えまだまだ外にいたい！！！！！！!!」

フツ

第五剣悪魔

「わっ」

ドシン

「いてて……此処は……」

……俺の部屋だ

「塚なんで竜崎の部屋？」

「……そこしか思い付かなかった」

そうゆう事か

「別にローエンの部屋でもいいんじゃないか？同じ寮だから問題ないだろ？」

「いやスラガがいるからね……」

「レイドの部屋は……」

「まだ部屋は無い」

だよな

「帰んのどうすんだ二人共」

「……知らねWWWW」

「お前は瞬間移動で帰れWWWWWW」

「ほいWWWWWW」

フッ

「レイドは？」

「……狼姿で帰る」

「分かった」

レイドは狼姿で帰って行った

そっぴーんやー人っすげー久しぶりなような感じが……大体紗藍が来るし大体戦闘訓練に居るし

ピーンポーン

誰か来たな

ガチャ

「今暇？」

「暇か？」

紗藍とライトニングが畳み掛けるように言う

「暇だけど」

「んじゃ入るぞ」

「ま……待て勝手に入んな！」

「おー結構綺麗じゃないかー」

ライトニングが勝手に入って来た……余り部屋を見られたくない

「で要件は？」

「あそつだ忘れる所だったどうもねローエン君とレイド君を連れて
教室にだつて」

「先生からか？」

「うん」

まずい……もしかしたらあの事が先生にバレたかもしれない

まあ呼び行くか

「はいはいお前達は帰れ帰れ」

「えー……」

「えーじゃねえ」

「はいはい……」

大人しく帰ってくれたな……ふうあいつ達呼ぶか

10分後

「やっぱバレたじゃねえの？」

「バレてないバレてない」

「……そうか？」

「だー！大丈夫だつて！！」

何だかんだ話してる内に教室に着いた
ガラッ

「……あれっ先生いない？」

「……呼んでたのに何故いない」

「知らねー」

何故か知らんが先生がいない
何故だ

「……………クツクツ」
ん？

レイドも気付いたのか耳をピクピクとさせる

「そこ誰かいますね」

今度はティーラの声がする

どうも隣っばい

「取り敢えず隣の教室に行くぞ」

5分後

ガラッ

「……………何だ何だ？」

「！動かないで下さい！！」

>術式起動！上級光呪文ホーリー！！<

「うおっ！つと」

今何が起きてるか正直分からない状況だ

「……………何だあの時の屑天使か」

？？何が何だか分からない

何も無いところから悪魔ぽい奴が出てきた

何かティーラの事知ってるぽいな

「あの時よりは私は強くなってます」

「ふーん屑は屑なりに頑張ったんだ」

「俺達つて邪魔なような……………ボソッ」

ローエンは呟くがあえてスルーで

「まあ屑はいくら努力しても無駄さ」

「屑なのか？こいつは？」

「レイド……………！？」

「へー君はこいつが屑じゃないと言えるんだ……………」

「少なくともだが」

「ふーんでもさ過去も知らないのに言えるの？」

「…………お前が何知ってるのかは知らないけど…………人の過去なんて興味無い」

「…………そうかい」

>術式起動！中級雷呪文サンダースピーヤー！！<

「おっと　不意打ちは卑怯だよ屑天使」

「……………」

「ならこつちも行かせて貰うよ！」

>術式起動！中級闇雷呪文ブラックサンダー！！<

「危ない！」

>術式起動！雷撃守護！！<

バアアアア…………

「よし……………」

>術式起動！中級合成呪文氷炎弓矢！！<

「うわっ」

「よし！当たった！」

俺の呪文が当たるとテンションが上がる

ピョン

バンツ！

レイドが銃で悪魔的な奴を打つ

しかし悪魔的な奴はかわした

>術式起動！暗黒呪文！リバイズミール！！<

「……………」

「レイド！」

ジャキ

「…………間に合った？」

「ナ…………ナイスタイミング…………！」

この人は特別クラスのRSって人

虎族で和刀使い

本名は知らない

「な…………僕のリバイズミールを斬るとは…………ただもんじゃないね」

ジャキツ

「な……………」

「……………化け物は大人しく自分の世界に帰りな!!」

この人はRAっ人

RSって人と同じ特別クラスの人間

RSって人と同じく和刀使い

「くっ……………今日は大人しく帰ろうじゃないか……………バイビー屑天使」

……………あいつは大人しく帰って行った

ティーラは……………

「……………何も出来なかった自分が不甲斐ないです……………」

「……………」

「まああいつ退治出来たからいいんじゃないかな?ねA君」

「……………まあな」

RSとRAはそうゆうが俺はそうは思わないだよな……………

「……………俺はあいつを倒せばいいってもんじゃないと思うな」

ローエンの意見には賛成だ

「何で?ひつとらえればいいの?」

「いや……………そうじゃ無くて……………もういいや」

結局折れるのか

「ならいいやA君行こう」

「……………おう」

第六剣大襲撃

「ふう……………」

今日は散々だ……………」

悪魔的な奴は襲撃してくるしティーラは過去がヤバいらしいし先生は来なかったしもう散々だ……………」ハア……………」

ピンポン

ガチャ

「……………」はい？」

……………」先生だ

「なんですか？」

「お前とレイドが同部屋になった以上だ」

……………」マジかよ

まあいいけど

「……………」宜しく」

「おう」

次の日

「ふぁー……………」

さて行くか

レイドは先行ってるし

10分後

着いた……………」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ……………」

「はっ！？何だ！？」

「……………」窓見ろ」

俺は窓を見た

「……………」何だありゃ」

外に魔物の軍見たいなのがこっちへ来る

「……………」行くよ！A君！！」

「は？」

「いいから！！」

ピョン

RAとRSが飛び降りた

馬鹿じゃないか！？

「おい俺達も行くよ二人共」

「はいはい……」

暫く経って

「げー……何だよあれ……」

「……ひきいつているのは人間か……？」

……どうも俺達じゃどうしようもない数だな……

「おい少年達！！」

「はい？」

「少年達僕達は魔物を何とかする少年達は人間を倒してねーではア

ディオス！！」

「ちよつあんた達でもあの数は……」

「……問題ないとおもうよ？」

「……だから俺達はあの人間を倒すぞ」

まあ人間倒せば魔物もどっか行くだろうしな

「行くよ！二人共！！」

>術式起動！瞬間移動！！<

フッ

ドスン！！

「いてっ」

森の中に瞬間移動した

「……あいつだ」

「どうする？僕が術打って見る？」

「……いや俺が突っ込む隙が見えたら二人共術や呪文や何やらで攻

撃してくれ」

チャキッ

タタタタタタ……

「ハッ！！」

「ふっ……」

>術式起動打撃防御<

パキーン！！

「よし今だ……！！」

>術式起動！上級浄化呪文ホーリー！！<

「おっし……」

>術式起動！合成闇光呪文！ホーリーシャドウ！！<

ドカーン！！！！

……… 何だと………！！？

「……… 何ださっきの攻撃は………」

効いてねえ……

「くっ………」

>連続術式起動！！ダブルサンダースピアー！！<

>術式起動！最高水呪文！コーラルレイン！！<

レイドとローエンが連続で呪文を打つが

「やっぱ効いてねえ………」

「……… どうする？呪文を三発連続で打つか？」

「……… 俺に任せて」

>術式起動！最高闇光呪文！ホワイトホール！！<

……… またすんげえの打つな………

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ………

パリーン……

「何だ！？」

「やっぱバリアしてたか………」

バリア？あれかだから術も打撃も効かなかったのか

>術式起動！天空呪文！テックウキヤリバー！！<

ドッカーン！！

ちよっ……… 奇想天外すぎだろ………

「間に合った？」

「おー……RSだ……」

「あと少年達には名前のSの部分だけいうよSは‘シグマ’だよ」

「シグマサンキュー!!」

「ジャキッ」

「……俺のAは‘アカストル’だ」

「……来るぞ」

「俺達は魔物の方をやってっけてくるな！」

「分かった！」

>術式起動！最高火炎呪文！ブラックブレイズフレイム!!<

「……フッ」

>術式起動呪文防御<

「パキーン!!」

「ハッ!!」

「ふん……」

>術式起動打撃防御<

「くっ……」

「……駄目だ剣でも魔法でも弾かれる……」

「……どうすりゃ……良いこと考えた……!」

「……んどうしたの？」

「……レイドの剣に呪文を打ってそれで斬れば……」

「……お！いいね！それ」

「……よしそうとなれば」

「……つなわち呪文を剣に打って斬るってこと」

「……レイドに話したら……分かったやってみるとの事」

「……いくぞ！」

「俺が掛け声を掛けローエンが術式を打つ」

>術式起動！最高雷呪文！インディグネーション!!<

「ドッカーン!!」

「バーン!!」

「……………」

「チャキッ」

「たぁー!!」

「ジャキッ」

「ぐわっ!!」

「よしっ!! 決まった!!」

「う……………」

「何だこの目眩……………」

「ヤバい……………意識が」

第六剣大襲撃（後書き）

次はレイド目線です

第七剣決死の大決戦

……どうもあれは幻影だった見たいだな

「……本物はそつちか」

「ふんだが貴様一人で私を倒せるかな……？クックック」

「一人……？何か忘れて無いかな？」

シュ

「な……！？」

……シグマ達だ

「少年ー僕は剣？呪文？」

「……呪文で」

「りょーかい」

「……俺は剣か？弓か？」

「……弓」

「了解」

「……行くよ！！」

>術式起動最高氷呪文ダイヤモンドダスト！！<

「うおっ！？」

「うっし！決まった！」

……どうもシグマは呪文はローエン位使えるみたいだな……

「……行くぜ……！」

ハ弓術アイスアロー！！

……弓術は良く知らないが結構強いと思われる

「……」

>術式起動暗黒呪文……<

ジャキッ！

「……」

「流っ石あー！！」

シグマはテンション高いな……

「あいつは魔法が得意っぽいな……なら！」
「弓術マジックアロー……」
「……フン」
>術式起動打撃防御<
バババババ……
キンキンキン……
「……チツうぜえな」
「……呪文と剣を同時に当てればいいんじゃないかな」
「……そうだな」
「……まあアカストル君の魔法剣ならそうじゃなくてもいけるかも」
魔法剣か……
「……よし、なら魔法剣を使ってくれ」
「……了解だ」
>魔法剣火炎切り！<
「……たあ！」
ジャキツ
「ぐわっ……」
「よしっ！」
>術式起動！呪文封じ……！<
「……今だ！レイド君！」
チャキツ
バーン……！
「……ギヤア……！」
ドサッ

第七剣決死の大決戦（後書き）

短い……

次は竜崎目線に変わります

第八剣……またっ!?

……あの戦闘から1日

レイドにあの戦闘の事を聞くと「……俺とシグマとアカストルで倒した」と

レイドはそうだがシグマとアカストルは分かってるけどやっぱりえーんだな
うん

しかもまた転入生が来ると名前は天空想羅とサクガだと
情報は涼風と双子蛭からだから間違い無いだろう
因みに涼風と双子蛭は生徒会らしい
だから最近姿見ないんだな

「授業か……」

「あれ?もしかして嫌なの?」

「いやそうじゃない」

「はつきりしろ!」

こいつは噂の転入生

サクガ性別は男

性格はせっかちっぽい

「まあまあ落ち着いて……」

こいつも噂の転入生

天空想羅性別は女

性格は真面目そうだ

作者・授業も面倒なので飛ばしますWWWWWW

戦闘訓練

「こんにちは。」

転入生の天空想羅の方が話し掛けてきた

まあここはこんにちはと返すのがいいだろう

「こんにちは……」

「いやそこはこんばんはだろWWWWWW」

「うるせー」

「(´・`・´・`・´)によるーん」

とりあえず無視

「戦闘訓練終了。戦闘訓練終了。」

「＼(^O^)/オワタ」

「WWWWWWWW」

何かさっきの(´・`・´・`・´)によるーんが終わってからローエンが可笑しくなってるような気がWWWWWWWWWWWW

外伝1剣 血塗られた聖天使と漆黒の想像神（前書き）

A t e n s h o n

ネタバレ

投稿ペース気紛れ

新しいキャラ多い

天空想羅編????編????編で別れております（?の奴等はネタ
バレ覚悟で見れば分かります）

OK?

OKな人go

駄目な人逃げましょう

外伝1剣 血塗られた聖天使と漆黒の想像神

「おい、アクアさんよ。」

「……何だ……？」

「目的地は、地上、だよな？」

「ああ。」

「何で、緋天測高校、ってところに行くんだ？」

「……、太陽神の聖石と永遠の歌姫。」

此処は緋天測高校。

僕は、アイテール。」

今は、天空想羅、としてこの学校に通っている。

元々性格が似てる、人格、なので楽でいいな。」

まあ僕は男だから、天空想羅、はやりずらいけど。

「おい天空。」

あ、竜崎だ。

「何でしようか？」

「次は移動教室だからなくただそれだけ。」

「わ、分かりました。」

というよりも僕が、天空想羅、になった理由。

「太陽神の聖石、が理由。」

もう一つは、永遠の歌姫。」

この2つは僕も余り知らない。

「此処か、あの理由がある高校は。」

「……見つかるかは分からないけどな。」

「……アクアさん何で見つかるか分からないだよ。」

「……これは僕が依頼した物じゃない。これは、Burattini、からの依頼。」

「……Buratthi……?」

「僕もBuratthiは知らない。偶然この依頼を見た。
「まあ気にせず探すぜ。」」

「戦闘訓練終了戦闘訓練終了」

ふう〜終わった〜

ブーン

「終わったな〜」

「セ……セイレーン〜」

「聖石は見つかったか?〜」

「いやまだまだ〜」

「そつか……じゃあな〜」

「あちよっ〜」

ブーン……

はあ〜相変わらずセイレーンは自由人だな〜
ん?

ブーン

「よう……アイテール……〜」

「え?え?〜」

「僕だアクアだ〜」

「えっと……も……もしかして〜」

「今そちらに向かっている〜」

「あうん〜」

「では〜」

ブーン……

T e r e p p o - t e - s h o n

あ……

「アクア……〜」

「……よう……〜」

「俺も来たぜ。」

G a i d e n n i k e n N i T s u d u k u
G a i d e n n i c h i k e n N E N D

外伝1剣 血塗られた聖天使と漆黒の想像神（後書き）

まだまだ続きます

第9剣 事件（前書き）

外伝後

意外と外伝と繋がってたりしますがネタバレです

第9剣 事件

……まさかね

まさか……高校が破壊されるなんて……

何時も明るいライトニングと紗藍はテンションが下がり過ぎて無口になってる

3日前……

「戦闘訓練終了戦闘訓練終了」

「ふう戦闘訓練終わった」

ゴゴゴゴゴゴ……

「……何だ!？」

ビューン

「校庭からだよ!」

「分かった!ライトニング」

五分後

「……何だこりゃ。」

「太陽神の像が蹴られててその衝撃で動いててその下に階段が……」

「行くぞ。」

「スラガ……てめ何時の間に……」

10分後

「あれ?想羅たんじゃなか」

「あははは……」

「まさかあれお前が……?」

「いや!とんでもない!私じゃあんなの動かせないよ!」

「んじゃ誰が……」

「元から動いてました」

ドカーーーーーーン!……!……!……!……!

「何だ!？」

「ちよっと待って……」

瞬間移動！！

それで見たら高校が崩れていたと……

その後は高校を破壊した？ 奴に切りかかれられ相手が強くて逃げたと……

散々だった

その時いたのはライトニング、俺、スラガしかいなかった

大体は帰っていた

今はレイドやローエンなどを探してる

紗藍はライトニングと一緒に魔法でがれきをどかしてるらしい

天空もない

）　）　）

メールが届いた

誰だよこんな時に

「えーと……件名無し差出人は……紗藍かえーと……」高校お破壊したのは〜人じゃあなくて隕石だってえ！！（ハート）（キラキラ）

「なんかむかつく……」

）　）　）

またかつ

「ライトニングからか」レイドさんとローエン君が見つかったよ〜相棒が見つかって良かったね〜（キラキラ）「」

マジかWWW

）　）　）

またかよ！

「二件きてるし……レイドとローエンか……」大変な事になってるな Reido 「いやー助かった助かった〜（^o^）/しかし大変な事になってるね ローエン 「レイド短い！！

ローエン＼（^o^）/

）　）　）

……（-_-#）

「涼風か……」「只今三年生の多半数以外は見つかったが天空想羅は未だに行方知れずだ情報を知ってれば私の方まで連絡してくれ。以上だ。Suzukaze」
「まだ天空想羅は行方知れず、か……」
「「天空想羅はもしかしたらまだ太陽神の像の階段下りたところにいるかも知れない 竜崎」返信つと……」

第9剣 事件（後書き）

10 剣 o a 外伝に続く……

外伝2剣 全ての黒幕（前書き）

外伝

天空想羅が何故あの場所にいたのかの巻です

外伝2剣 全ての黒幕

3日後

漸く太陽神の聖石の在処を見つけた。

これもアクアと、レイエル、さんのお陰だ。

「……本当に此処で合ってるのか？」

「ああ太陽神の聖石の波動は此処で止まってる」

「しかしレイエルさんの能力は凄いですね、波動が見えるなんて……」

「……」

「ゴチャゴチャ言ってる……これ、どうする？蹴るか？」

「それが一番だな」

ドカッ

ゴゴゴゴゴ……

「……行くぞ」

T e r e p o - t e - s h o n

フッ……

「いたっ！」

「……どうも此処は床はアスファルト見たいなので出来てる見たいだ。

「……これが太陽神の聖石か……」

アクアが太陽神の聖石をとった後

「……誰か来る」

「えっどうしよう」

（とりあえず僕達は呪文で屋上に瞬間移動するお前は天空想羅に戻れ）

（わ……分かった）

ブーン

タタタタタ……

あ……

「あれ〜？想羅たんじゃなか〜」

ライトニングだ

「あははは……」

「まさかあれお前が……？」

いや無理だよセイレーン……

「いや！とんでもない！私じゃあんなの動かせないよ！」

「んじゃ誰が……」

まあそうなるよね……

「元から動いてました」

ドカーーーーーー！！！！！！！！！！

(よし……神術で屋上にいく)

(了解だ)

T e r r e p o - t e - s h o n

フッ

「来たよ……」

「！何かの物体と人間二人の波動を探知」

「誰と誰だ？」

「一人は……！」

「ど……どうしたの？」

「驚くなよ……ゴットイーターの奴だ」

え……

続く

外伝取説2話時点(前書き)

ネタバレする所は や や で隠してあります

外伝取説2話時点

天空想羅は……

天空神アイテールが化けた姿

アイテール

天空想羅と似たような性格で天空神

アクアとは であり とは兄弟

と との子で の家系のオッドアイを継い

でいる

アクア

強気な性格性別は男

アイテールで説明したようアイテールと とは である

と との子で の家系のオッドア

イを継いでいる

の力を継いでいる為 である

レイエル

元墮天使で今は聖天使

因みに一様 である

ゴットイーター

まだ謎に包まれている

第十剣 破壊された緋天測高校へ（前書き）

ついに外伝キャラが本編に登場です

第十剣 破壊された緋天測高校へ

グシャ（ストラップを潰す音）

「……何だよこんな時間に……」（3:30分）

「ああ涼風か……」 〔天空想羅は君が言った所にはいなかったぞ

… 涼風 〕

「さて二度寝するか……」

ジリジリジリジリ……（目覚まし時計の音）

パチッ

「今何時だ……」

……げっ寝すぎちまった……（10:57分）

「あいつのせーだ……いや待てこの一々出てくる（）って何だ何時もは無いのに何故ある」

（説明しよう……この（）とは外伝で出てきたセリエルその人である……）

「こんの……（チャキツ不法侵入者……）」

ドドドドド……

「いや君の方がヤバい事知ってるって……乱射魔……！」

「いやいや信じてくれよ……あの白髪は君達の高校は破壊して無いんだっつもの」

「でもあいつ以外に破壊できる奴が何処にいる」

「君達の高校を破壊したのは君達の高校の上空に居ただげ信じ

「てくれよ〜」

上空つてな……

「上空つて鳥獣系統の獣人位しかいねーだろ」

「魔法使いは飛べるぞ？」

「いやいやローエンもかなり強い魔法使いだけどよー……」

「無理だろ……」

フワッ

「いちよう俺は飛べるが……」

WWWWW

「マジかよ」

「マジだよ」

「しかし上空から隕石なんか落とせるか？そんなに破壊した奴は強いのか？」

「神狩りだから当たり前だろ……」

「神狩りつてWWW

「神狩りつて何だ？」「神狩りはそのまんま神が持つてる聖石を狙つてる魔族最も魔族なんてこの世界には少ないけどな」

「一つ聞いていいか？」

「何だ？聖石の事か？魔族の事か？」

「その両方だ」

「聖石は神の力が秘められてる物。普通は神が持ち歩いてるらしいぜ」

「ふんふん」

「魔族は魔界の一般的な亜人魔界は余程強くなえと地上に生きて帰つてこられない魔界で生きてる魔族共はお前見たいな人間じゃかなわないぜ」

「な……」

「まあ事実述べただけだけど……」

待て待て待てんじや何時も喧嘩してたあの魔族は俺より強いのか？

いやいやいや無い無い無い

ある筈が無い

「地上の魔族はお前と同等位じゃないか？」

「はあ」

来てしまった

涼風達が調査しているあの……

「はあ〜こりや凄いな〜」

破壊された緋天測高校へ

第十一剣 想像

「ひでえなこれ」

「……………」

流石にもう来ると思ってたな……

「あれ？竜崎じゃないか」

あ

「おう久しぶりローエン……あとその後ろの二人は何だ」
帽子を深く被った女子？とちよつと小柄な男子だ

「ああこの二人は疾風と古町他のクラスの一年生」

「んでどつちが疾風で古町だ？」

「俺が古町だ」

帽子被った方の奴が言った

男っばいな……

「男か？女か？」

「……………女だ」

「んじゃそつちのチビが疾風か」

「あ……………はい」

「……………」

「ん？」

「あ俺だわWWWほうへ……………えWWWちよつWWW」

「何だどうした」

「いやWWWカラスな事がおきるぜWWW」

「え」

「……………{想像} {修復}」

パアアア……………

……何がおきたか説明する
いきなり術式らしき物が打たれてそこから瓦礫がどンドン高校の形
になって最後は今までの俺達を通つた高校に元通り
レイエル（後レイド）以外はみーんな開いた口が塞がらない状態に
なつてた

第十二剣 終わりの始まり（前書き）

第一章が完結です

第十二剣 終わりの始まり

高校の再生が終わりすっかり元通りになり明日には学校に行けそう
な感じだ

俺が落ち着いた時屋上に何かの人影を感じた
パチッ

「この高校の制服はコレか。ちょっと地味だな」
俺が屋上を見てる時に魔術でレイエルが緋天測高校の制服を着た
地味なら着るなよ……

「ま、いかッ」パチッ

「んじゃな」フッ

「お……おい！まだ聞きたい事が！」

ヒラヒラッ
パサッ

ん？これは……レイエルのメルアドか？
何か書いてあるな……

「連絡先だぜっ（、、）見たら必ず登録しろよ！（^^）ノ後
見たらメールしやがれ！」（・|・）|」

何だこの顔文字共は……

まあいいか登録するか……後メールっ……

「テストメール届いたか？」

送信っと

（ （ （

「早っ」

「届いてるぜっ！（^^）！因みに俺の携帯はスマート（）（ry

」

スマート（）（ry ってな……

さて帰るか……

第一章完結

第二章（シャドー目線）へ続く

外伝三剣 崩壊（前書き）

本編一章も終わり外伝も終わりです

第二章の時に竜崎目線で外伝を出すかもしれませんが……

外伝三剣 崩壊

え……

ゴットイーターって神狩りの奴じゃんか……

「……来るぞ」

「 待って!!! 」

「 ん? 」

「 もう一人の波動って…… 」

「 あーアイテール…… シャドーだ

お前が探してた」

え

……シャドーとは僕の兄であり…… まあ真相は謎だけど

（おい！アイテール達！てめえ等は非難しとけ！俺が高校生を避難
さしとく！）

（りょーかいいー少年ー）

（少年じゃねえ）

（と……とりあえず逃げるね！）

T e r r e - p o - t e - s h o n

外伝完結

本編第二章に続く

二章 第二十刻 始まり (前書き)

第二章です

二章 第二十剣 始まり

「フワアー……（あくび）」
「やべー寝みー……」

パチッ

「ニャンか用でございますニヤ？」

「……アマテラス、眠いから何とかしてくれ」

「ニヤ！？それは無茶ぶりニヤ！」

「だよな〜……」

アマテラスは猫天使型の式神。

猫だから色んな所に「ニヤ」がつく

能力は熱気と寒気を操る能力

まあ小さい氷と鬼火見たいなのを操れる

パチッ

「何か用でしょうか。シャドー様」

「眠いから「ニヤ」とかして欲しいといっていたニヤ」

アマテラス……

「はあ……何とかしてみます……」

パアアアア

「生き帰ったあああああ！」

こいつも式神。

ブレイドという名前で鴉天狗型

能力は気力を操れる能力

しかし眠気が取れた

ガチャ

「シャドー……」

薄い緑色の癖毛のメカ耳の背の低い青年
アクアだ

後ろにいるのはクリーム色の髪の毛の背が高く俺等の事を少年と呼ぶ
どうも神らしい

確か星と想像の糸を紡ぐ神だっけな……

「アイテール様は如何なされました？」

「アイテールはまだ用事があると」

ふーん……アイテールは用事か

「飯だ」

「「「お〜!!!(だニヤ!!!)」「」」

流石アクア

凄い料理だな

「うニヤ〜」

「うま〜」

「……そうか？別に何時もと変わんないけどな」

「何時もと変わってるんじゃないか？」

ドカーン!!!!!!

「は!?!」

ドドドドドド……

何だ？

「ちよつと表見て来るニヤ」

「……僕も」

こいつ等じゃ心配だから……

パチッ

「……」

こいつはメイト

人型の式神

能力は魔術をパアーアップさせたり敵の魔術を操る能力

「……緊急事態ですね？」

こいつはフレイヤ

犬天使型の式神

能力は空気を物体にしナイフにしたりできる能力

「フワアー……」

「あくびすな」

あくびした奴はヒール

竜悪魔型の式神

能力は物体、非物体を自在に操る能力

「んじゃてめえ等は表見てこい俺も後で行く」

二章 第二十剣 始まり (後書き)

読んで下さりありがとうございました

第二章 第二十一剣 分裂。破壊（前書き）

またあいつが来ます

そして別の小説の主人公とヒロインが出ます

第二章 第二十一剣 分裂。破壊

「了解」

フッ

「さて行くぞ〜」

「えー面倒よしょ」「つべこべ言つな」「はいはい……………」

「は……………」

辺りは所々に隕石？見たいな物が転がっている。

魔物のエグい死骸がゴロゴロと……………」

「……………」何だこれ……………」

レイエルはこんな反応だ

まあ普通の反応だろうな

「……………」

アクアは黙りっぱなし

「シャドー様！！」

「おうなんだ」

「今回はゴットイーターが神を狩ろうとしたみたいですから……………」

「ん？あ……………」お前ユガヤじゃねえか後アリス。」

「マジでWWWW」

「久しいな……………」

ユガヤは高校……………」いや中学に通ってた同級生だ

アリスも。

後レイエルやアクア、アイテールも。

あの時は良かったな〜

……じゃねえ!!

「もしかして狙われたのはお前等が……?」
「そうです……」

「ゴットイーターは何故お前等を……」

「……此は僕の推測だが……多分ゴットイーターは……神獣を自分の手っ中にしようとしたのでは?それにかなり強い死神の力ならば地上を完全に支配したのも同様。だから二人を狙ったのでは?」

「大体合ってるな」

「だな……」

「ッ……!!来るぞ!!」

「な……何がですか!?!」

「あいつだ!!ゴットイーターだ!!」

第二章 第二十一剣 分裂。破壊（後書き）

見て下さり有り難う御座いました

第二章 第二十二剣（前書き）

今回シャドーさんのドタバタぶりは凄いWWW
まあ強いですけどねWWW

第二章 第二十二剣

マジか

テンション下がるわ

「んじゃ逃げようかWWWW」

「「は？」」

「ゴチャゴチャいわず！強制テレポーション！！」

「アピヤWWWW」

此処からはアクア目線です。

何なんだ……一体……

あのアイテルの兄貴が……

「全く何なんだか……」

「ようかなり悩んでる見たいだな。」

「ああ……全くあのアイテルの兄貴の暴走で可笑しくなりそうだ

……」

「でしような。まあ暴走は直ぐ止まる人だからな。あの人はほっと

いても平気だ。」

ユガヤの意見は正論だ……

「……夢想館はどうした。」

「あゝあそこはレルだけで十分。あの箱入り娘のお嬢様を神獣達の

世界に帰してやりや神狩りにや狙われないから問題無いぜ。」

「その執事はかなり強いんだな……」

「俺の自慢の執事だ。お前には護衛程度なら貸してやってもいいぜ。

」

「そりやどつも……」

第二章 第二十二剣（後書き）

次からはアクア目線です。

（ユガヤ）「見てくれてThank you!!」

異世界（前書き）

何剣とか書くのやめました。

異世界

「……僕は緋天測高校に潜入する。後二人位なら連れていけるが誰か行くか……？」

「（拳手）」

「ユガヤか……後は居るか？」

シーン……

……まあシャドーは有り得ないしな。

カルディナもな。

アイテールは……行くはずが無いな。

テレポーターション

フツ。

「ふう……」

此処が緋天測高校。

制服は術で作った。

「やあ！君達チミ！お久しぶり！！」

「……誰だよ？」

「ほら天上界で活躍していた能力者。」

「あ。あいつか。」

「やっと思いついてくれたか？」

「……一つ言いたい事があるんだが……」

「ん？」

「後ろの奴は誰だ？」

「この子緋天測高校の転校生。迷ったんだってよ。」

……今話してる天使（？）は多重人格者であり能力者。

人格は自分で操れるとかどうとか。

罪を犯した人間、天使、更には神までも裁きを下す成り上がりの天

使（？）でかなり苦労した天使（？）

名前はホワイティシューティ。

「あんた名前何だっけ？」

「あんたって呼ぶの止めてくんない？……まあいいや。あたしは領海職流駒。まあ宜しく」

……

「……うわゝ感じ悪う……ボソッ」

ユガヤに同じく。

肉食系女子って奴か……

「あの感じ悪い奴は平気かな…… WWWWWW」

「知らん。」

「ちよつとおおおー!!」

……あの感じ悪い奴の声だ……

「行ってみようぜ。」

「おう。」

(……………)

「何で銃とか剣とか持ち歩いてるの!？」

「アホか。魔物が来たら対処出来ねーだろ。」

「はあ!?何それ?!？」

……どうもこいつは異世界の人間っぽい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5066v/>

学園と太陽神と永遠の唄姫

2011年10月9日12時29分発行